

古墳時代

日本では3世紀末頃から7世紀にかけて古墳が盛んに造られ、天皇や豪族などそこに葬られました。古墳の形や、埋葬された人と一緒に埋められた様々な品物(副葬品)によって大きく古墳前期と古墳後期に区分されます。初期の頃は木棺に納めて土で覆ってから埋めました。その後棺をいれる部屋を石でつくるようになると上から被葬者を納めて蓋をする「竪穴式石室」が主となります。これを前期古墳と呼びます。権力を誇示するように規模も大きく被葬者の近辺に多くの宝器的・呪術的副葬品を埋納していました。

これが5世紀末以降になると、石室の横に羨道と呼ばれる外への出入口を設けて「横穴式石室」と呼ばれる古墳が多くつくられるようになります。この古墳は後期古墳と呼ばれています。規模も小さく権力を誇示するよりも家族の墓としての役割が強いといわれています^a。

阿木地域を含め恵那地方の古墳の造営は5世紀にはじまり7世紀末まで続いています。中央と比べ大きな開きがありました。阿木地域には37基の古墳が確認されて、飯沼川、阿木川の2つの流域を中心に古墳群が見られます。単独墳は少なく、一定の地域にまとまって分布する古墳群の形態をとりすべて「円墳」です^b。そのほとんどは古墳時代後期のものとみなされています。

❁ 前期古墳について

権力者の権力を示すような古墳が阿木地域にはあつたのでしょうか。権力誇示的な古墳が一般的につくられた古墳前期に該当するものは、阿木地域では5世紀後半の宮ノ根1号墳や狐塚1号墳が該当しますが、両古墳とも遺体埋納のための施設(棺や囲いなど)はなく、宮ノ根1号墳では棺すら使用した痕跡がありません。直葬形式で埋葬されたようで、狐塚古墳では被葬者の近辺に副葬品がなく、副葬品がみつかった宮ノ根1号墳でも僅かでした^c。



宮ノ根古墳(1,6号全景)
S53宮ノ根古墳群発掘調査報告書より

阿木を含む恵那地方では他地域で見られるような宝器的・呪術的な副葬品を被葬者の近辺に埋納しなかったようです。副葬品は人目につく墳丘表面に置かれた形跡があり、墳丘表面の葺石も人の目にふれる側だけ厚く丁寧に処理しています。規模は小さいものの独立丘陵の頂部や舌状台地の先端等、集落から見やすい場所にあり、死者を手厚く弔うというより外観を優先しています。その地域を支配する豪族のイメージとはほど遠く、一般から隔絶した権威と経済力をもった人というより、司祭的な性格を有した人だったのではないのでしょうか。その要因として、「小河川によって切り開かれたわずか1km四方ほどの小地域である。この地域の前期古墳が発展しなかった理由はこの地

域の生産力の低さに起因するとともに丘陵や谷により分断された地形的要因により農業共同体は十分な発展は望めず協同体の首長も経済的に他の共同体成員よりも隔絶した存在となりえなかったことが背景にある^{d)}のででしょうか。

❁後期古墳について

横穴式石室は遺体埋納後も羨道とよばれる通路を通して閉塞石を取り除けばいつでもアクセスできます。したがって複数の遺体が埋納でき、数世代にわたり利用することもできました。当時の人々の古墳築造に対する意識の変化もあり、この意識の変化は日本では五世紀中葉に大陸の墓制の影響を受けた九州から始まり、美濃国では五世紀末葉からだ確認されています^{e)}。飯沼・阿木地



狐塚古墳(3号墳)石室中津川市史上巻より

内で横穴式石室の時代が判明する確実な資料は狐塚3号墳、八屋砥2号墳の2例しかありませんが、県内の状況を考慮し、遅くとも6世紀中頃までには「横穴式石室」を導入していたと推測されています^{f)}。

しかしながら、「飯沼地内の古墳(20基)の形態は直葬(12基)が横穴式(6基)の倍近く占めており、これら全てが5世紀後半に属するとは考えられず、直葬・横穴式石室の二通り埋葬形態が併用していた」(宮ノ根)ものと思われます。阿木地内の古墳(17基)では直葬が横穴より若干多く、阿木地区全体では直葬がやや多いようです。

なお、宮ノ根6号墳からは鉄鎌が見つかっています。6世紀中頃には鉄鎌を含む鉄製農具が普及していたかもしれません。

阿曾田遺跡の発掘調査報告によると、古墳時代では、中・後期が最盛期とありますが、住居址にはかまどが築かれていたようです。古墳時代の阿木の人々がどのような生活をしていたのか推測するしかありませんが、阿曾田遺跡には古墳時代の住居址から炭化米やトチノキ・ドングリ類が見つかっています^{g)}。米とあわせてトチノキ・ドングリ類も食していたようです。



阿曾田遺跡 13号炉(石組)

a 恵那市教育委員会。“古墳の時代”。正家廃寺と古代の恵那。小坂忠昭。恵那市教育委員会。2021, p25~26.

b 住田誠行。“古墳の形態と遺物”。宮ノ根古墳群発掘調査報告書。中津川市。1978, p36.

c 宮崎光雄。“恵那地方の前期古墳”。恵那市史通史編第1巻。恵那市史編纂委員会。1983, p503.

d宮崎光雄.“恵那地方の前期古墳“. 恵那市史通史編第1巻. 恵那市史編纂委員会. 1983, p507.

e宮崎光雄.“恵那地方の前期古墳“. 恵那市史通史編第1巻. 恵那市史編纂委員会. 1983, p511.

f住田誠行.“古墳の形態と遺物”. 宮ノ根古墳群発掘調査報告書. 中津川市. 1978, p37.

g笠原安夫.“自然遺物”. 阿曾田遺跡発掘報告書. 渡辺誠. 1985, p482.